

# 接續期



## 接続期の内容について



- ・このカリキュラムでは、接続期を以下のように設定しています。

アプローチ期…5歳児1月～3月

スタート期…小学校1年生4月

- ・アプローチ期に至るまでの育ちが基盤となり、小学校教育につながっていることを前提に、接続期では小学校の学習がスムーズにスタートできるよう、特に丁寧に双方向から子どもの生活を“つなぐ”ために作成しました。
- ・5歳児の秋頃には、子どもたちは小学校入学に対する期待を膨らませ始めます。しかし、同時に新しい学校生活に対する不安な気持ちも見え隠れし、揺れながら5歳児後半の時期を過ごします。
- ・小学校生活が始まると、新たな出来事や学びを楽しみながら意欲的に学校生活に入っていく子どもの姿が見られます。一方で、それまで、家庭や幼稚園、保育園等で過ごしてきた環境とは大きく違う生活に戸惑う子どもがいます。
- ・小学校入学前後の時期、子どもたちが見せる姿は一人一人違いますが、接続期の内容は、子どもたちの姿を少しでも大人が予想し、手立てや寄り添い方を考えておくことで、戸惑いや不安を受け止めやすくするものです。
- ・育ちや学びを滑らかにつなぎ、安心して小学校生活のスタートを切るために、幼児期後半の子どもの姿や興味関心のもち方が、小学校スタート期の参考になることでしょう。また、子どもたちを送り出す幼稚園、保育園等でも、入学が近付いてからだけでなく、年齢を問わず学びの連続性を意識した取組を進めるようにしましょう。

### 幼児期と児童期の学びのつながり



参考：「幼保小架け橋ガイドブック」滋賀県教育委員会

# 小学校接続期(5歳児 10~3月)

## 小学校への期待を胸に

「わくわく・のびのび・いきいき」育つために  
—発達をふまえた関わり方—

### 大きくなった 自分を感じる

身の回りのことが、進んでできるようになり、友達と一緒に意欲的に遊びを進めていこうとする姿が見られるようになります。

また、難しいことにも挑戦し、できるようになったことで自信をつけたり、みんなから頼りにされたりする経験を通して、大きくなった自分を感じられるようになります。

園生活を振り返ることで、仲間と過ごす楽しさや自分たちの成長を感じられるようにします。



### 小学校への憧れを膨らませる

活動に見通しをもって取り組み、集団の中での自分を感じながら行動できるようになります。

また、一日入学への参加、家庭での就学準備などによって、学校生活や勉強にも興味や関心をもって過ごすようになります。一方で、新しい生活に不安を感じ、気持ちが揺れる姿も見られます。

子どもたちが就学への安心感や期待をもって過ごせるように小学校と連携したり、園生活の中で育ってきた力を十分に発揮できる環境や関わりを大切にしたりしていきます。



# 1年生入学時

## 「できた」「わかった」嬉しさとの出会いを

### 発達の特徴

- 幼稚園、保育園等を卒園（修了）して小学校に入学し、幼児期から児童期に移る時期です。生活面では自分のことはほとんど自分でできるようになっています。また、自分と相手との考えの違いも理解できる時期に差し掛かっています。会話が豊かになったり、相手や場所によって話す内容や話し方を変えたりできるようになり、こういった力を基にして、学校での学習の準備ができていきます。
- 幼児期の教育においても6歳になる頃には、共通の課題に向かって友達と協同的に活動し始めますが、遊びや生活を通して自然に学ぶ「学びの芽生え」の時期から、小学校入学後は「自覚的な学び」の時期、つまり教科による学習が開始できるようになります。
- 入学当初は小学校の集団生活への変化に大きな期待や緊張、不安を感じて、幼児期に重ねてきた力をすぐには発揮できない様子も見られます。しかし、幼児期の教育、保育で培ってきた、楽しいことや好きなことに没頭する中で味わう驚きや発見、感動などを、うまく学習に取り入れることによって、小学校の学習にも意欲的に取り組む姿がみられるようになります。

### 大切にしたい指導のポイント

- 幼稚園、保育園等で培った「自分でできる」「自分でやりたい」気持ちや、諦めずに取り組んでいこうとする気持ちを大切にしながら、子どもたちが興味を示せるような課題を取り入れ、「できた」「わかった」と感じる機会を増やす指導を心掛けましょう。
- 小学校での生活の流れに慣れるため、学習時間の区切りを意識しつつ、時間を細かく区切るなど、柔軟に対応する時間を設けることも必要です。
- 生活に必要なものやことが分かり、安心して学習に向かえるよう、小学校の施設や、ものの位置、具体的な使い方を知らせます。
- 教師や上級生との関わりなどを通して、「学校は楽しい」と感じ安心して過ごせるように、学校全体の協力体制を整えることが大切です。

「わくわく・のびのび・いきいき」育つために  
—発達をふまえた関わり方—

一人一人の子どもの  
期待や不安を受け止めながら

- 幼児期の遊びや生活の中で培われた力や興味関心、経験を丁寧に受け止め、安心感をもてるようにしましょう。
- ワクワクした気持ちで新たなスタートを切れるよう、子どもが主体となって生活の仕方を身に付けていけるような工夫をしましょう。



規律を身に付けて楽しく学習する



- 学習に向かう気持ちや態度を、楽しみながら身に付けていけるようにしましょう。
- 正解や間違い、失敗に囚われず、発信することや、考えたりすることの大切さを感じられるような学びの場となるようにしましょう。

新たな仲間づくりに向けて

- 担任との信頼関係の構築はもちろん、上級生や担任以外の教師との関わりの中で、自分の居場所が感じられ、安心感をもてるようにしましょう。
- クラスの友達との関係づくりにつながる活動や雰囲気づくりを大切にしましょう。



## 一年生 就学時の姿

### 【先生、見てみて聞いて！（4月）】

国語の“あいうえお”がつく言葉集めの授業。個々が知っている言葉をノートに書いている。書けた子、考えている子、分からない子など様々。また、それぞれが立ち上がったたり、担任に自分の思いを伝えたりしようとする。教師の「〇〇しましょう」の言葉もなかなか届かない。



#### 【子どもの姿の読み取り】

新しい環境になり、不安も大きく、先生に尋ねることで安心感を求めています。一方、経験を生かして、自分たちで解決しようとする姿も見られます。



場面は変わって給食の時間。余ったおかずをどうするか、自分たちで進んで集まり、じゃんけんで決めようとする。

#### 【このコラムにおける 指導のポイント】

子どもたちの気持ちに寄り添い、できていることを認めたり、分からないことは丁寧に教えたりしながら、新しい規律を身に付けていけるようにします。

### 【もう先生に聞かなくても大丈夫！（6月）】



#### 【子どもの姿の読み取り】

「ペアで」「グループで」などの活動のパターンにも慣れ、簡単な指示があれば、自分たちで学習することもできるようになってきています。“今はどう過ごせばよいか”を理解して、落ち着いて取り組むことができます。

前の課題の片付けができていない友達を待つ間、隣の友達と教科書の読み合いをしている。教師の言葉掛けにもしっかり応じ、口々に自分の思いを伝えることは減ってきている。

#### 【このコラムにおける 指導のポイント】

課題の進み具合に差が出てくることもあり、待ち時間を自分たちで過ごす方法も身に付けていきます。次の学習や課題への準備、待ち時間の過ごし方について具体的に伝えると、自分たちで見通しをもって活動できるようになっていきます。先を見通せたり、活動を明確にしたりすると、子どもたちは落ち着いて活動できます。

# 学びの自立

- 興味、関心があり、価値があると感じられる活動を進んで行う。
- 人の話などをよく聞いて、それを参考にして自分の考えを深める。
- 自分の思いや考えなどを適切な方法で表現する。

	アプローチ期（5歳児1～3月）の取組	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	スタート期（1年生4月）の取組	
			学習内容	配慮
数量・文字・事象への関心	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 数字や文字、記号に関心をもち、遊びや生活に取り入れたり生かしたりする。【数】 【関】 ⇒保育室の環境や掲示物に、見やすく分かりやすい文字表示をしたり、時計を利用したりして、文字や数字への興味・関心を高めていく。</li> <li>• 身近な生活や自然現象に興味関心をもち、触れたり考えたり、遊びに取り入れたりする。【関】 【自然】 【関】 ⇒知りたい気持ちを大切に、不思議さや美しさ、仕組みなどに興味や関心がもてるようにする。</li> <li>• 様々な材料や用具に親しむ。【関】 【関】 【関】 ⇒様々な材料や用具にふれる機会をつくり、必要に応じて、遊びや生活の中に取り入れていけるようにする。</li> <li>• 物語を聞いたり絵本を見たりすることから、興味関心を広げる。【関】 【関】 ⇒いろいろな絵本に触れ、思いを言葉にしたり、友達や先生とイメージを広げたりする経験を大切にすること。</li> </ul>	健康な心と体  自立心  協同性  道徳性・規範意識の芽生え	スタート期（1年生4月）の取組  学習内容	配慮
聞く・話す	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 集団の中で、先生や友達の話に関心をもちて聞く。【関】 【社】 ⇒温かい気持ちで相手を受け止めることができるような支持的風土をつくっていく。</li> <li>• みんなの前で、話すことに慣れる。【関】 ⇒当番や簡単な司会などの機会をつくる。</li> <li>• 友達と一緒に考えたことやイメージしたことを、言葉や動きなどで表現する。【関】 【関】 ⇒クラスの中で、みんなに話をして聞いてもらったり、表現を見てもらったりして嬉しかったと感じる経験を大切にすること。</li> </ul>	社会生活との関わり  思考力の芽生え  自然との関わり・生命尊重	スタート期（1年生4月）の取組  学習内容	配慮
運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全身を使った遊びや、手先を使った遊びを十分楽しむ。【関】 ⇒縄・ボールなどの、運動用具を操作する遊びや、固定遊具での遊びなどを意図的に取り入れる。 ⇒走る・跳ぶ・ぶら下がるなど多様な運動遊びを取り入れる。 ⇒友達とルールを決めたり守ったりして遊ぶ楽しさを体験できるようにする。</li> <li>• 椅子に座って活動することを体験する。【関】 ⇒前を向いたり、並んで円くなって聞いたりするなど様々な形態を取り入れる。</li> </ul>	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  言葉による伝え合い	スタート期（1年生4月）の取組  学習内容	配慮
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>• みんなで声を合わせて歌ったり、表現したりすることを楽しむ。【関】 【関】 ⇒クラスみんなで声を合わせて歌ったり、歌に合わせて拍子打ちをしたりするなど、全身でリズムを感じられる活動を取り入れる。 ⇒友達と共通のイメージを広げながら遊びを進め、製作したり、演じたりする。</li> <li>• 遊びの中で、はさみ、のり、パス、絵の具、色鉛筆などの様々な教材用具を使う。【関】 【関】 ⇒はさみの安全な扱い方が分かり、自分で注意して使えるようにする。 ⇒色や線の美しさに気付けるようにしたり、丁寧にいかたりつくったりする気持ちを大切にしたりしていく。</li> </ul>	豊かな感性と表現	スタート期（1年生4月）の取組  学習内容	配慮

スタート期（1年生4月）の取組/配慮の欄 ・ 配慮事項 ★ 配慮事項に関連してのポイント

## 生活上の自立

- ・生活上必要な習慣や技能を身に付ける。
- ・身近な人々、社会及び自然と適切に関わり、自らよりよい生活を創り出していく。

	アプローチ期（5歳児1～3月）の取組	幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿	スタート期（1年生4月）の取組	
			学習内容	配慮
意欲や態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の持ち物の始末をしようとする。[目]</li> <li>⇒ロッカーや道具箱など、決まった場所で自分の持ち物の出し入れを管理できる環境を整える</li> <li>・見通しをもって遊びや生活を進める。[随]</li> <li>⇒時間や、少し先の予定を知らせ、見通しがもちやすいようにする。</li> <li>・集団で活動することの楽しさを感じ、進んで参加したり、発言したりする。[随 協]</li> <li>⇒子どもが意欲的に取り組める活動を取り入れ、集団（クラス）を意識できるようにする。（集団で行うゲーム、グループ活動など）</li> <li>・交通のきまりを知り、守ろうとする。</li> <li>⇒交通安全教室や園外保育などの機会を捉えて指導し、交通ルールへの意識を高めていく。</li> <li>・いろいろな遊具や用具の使い方慣れ、安全に気を付けて使おうとする。[随 認]</li> <li>⇒遊具や用具にふれて遊ぶ中で、自分で安全な使い方に気付いていけるように見守ったり、必要に応じて声を掛けたりする。</li> </ul>	健康な心と体  自立心  協同性  道徳性・規範意識の芽生え	スタート期（1年生4月）の取組  学習内容	配慮
食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の準備をしたり、食べた後は自分で片付けたりする。[随 自]</li> <li>⇒保育者に促されなくても自主的にできるように見守り、必要に応じて声を掛ける。</li> <li>・食事のマナーを守って食べる。[随 適]</li> <li>⇒立ち歩かない、食べ物を口に入れたまま話さないなどの基本的なマナーを繰り返し知らせる。</li> <li>・一定の時間内に食べようとする。[随]</li> <li>⇒時間の見通しがもてるように、子ども達に分かるように終了時間を伝えていく。</li> <li>・食後の歯磨きやうがいをする。[随]</li> <li>⇒毎食後の習慣として身に付くように継続して指導する。</li> </ul>	社会生活との関わり  思考力の芽生え  自然との関わり・生命尊重	自分で配膳したり、食事の準備や片付けをしたりする。[随 認]  見通しをもち、時間内に食べようとする。[随]  様々な食材や料理に興味をもち、食べてみようとする。[自 社 自然]  食事の後に進んで歯磨きやうがいをする。[随]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当番活動を取り入れて、食事の準備などを子ども同士が関わりながら協力してできるようにする。</li> <li>・給食に関わる人や食材、食事のマナーなどに関心がもてるように、折にふれ話題にする。</li> <li>・給食に対しての期待や不安を丁寧に受け止め、共感したり、安心につながるよう関わったりする。</li> <li>★食に関して、保護者との丁寧な連携が必要。</li> </ul>
排泄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレの使い方やマナーを守る。[随 適]</li> <li>⇒スリッパに履き替えたり、和式や洋式などいろいろな様式のトイレに行く経験をしておく。</li> <li>・活動の区切りの時間を利用して排泄を済ませる。[随]</li> <li>⇒個々の様子に応じて声掛けをする。</li> </ul>	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  言葉による伝え合い	学校でのトイレの使い方が分かる。[随]  決められた時間にトイレに行くなど、学校での生活リズムを身に付ける。[随]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレの正しい使い方を伝えるとともに、トイレが混んでいる時の対処方法など、臨機応変に動く方法についても具体的に伝える。</li> <li>・原則休み時間にトイレに行くことを繰り返し伝え、自立を支える。</li> <li>・トイレに行きたいときは、我慢せずに友達や先生に伝えることができるような雰囲気をつくる。</li> <li>★トイレに行くタイミングをまだ自分で計れない子どももいるので、個別に声掛けをしたり、失敗したときの対処法を考えておくなど柔軟に対応することも必要である。</li> </ul>
衣服の着脱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で身の回りを整えようと意識する。[随]</li> <li>⇒衣服を丁寧にたたんだり、脱いだ服の始末をしたりするなど、当たり前に行っていることにも意識がもてるよう認めていく。</li> <li>・必要に応じて自分で着替えたり、衣服を調節することができる。[随 認 自然]</li> <li>⇒着替え用の衣服を園に常備しておき、いつでも着替えられるようにする。</li> <li>・脱いだ靴を揃え、靴箱にしまう習慣をつける。[随]</li> <li>⇒個々への指導だけでなく、子ども同士が声を掛け合う姿を認め、自分たちの生活の場として意識を高められるようにする。</li> </ul>	豊かな感性と表現	自分の身支度や身だしなみを自分で整える。[随 自然]  時間を意識して体操着に着替える。[自 認]  脱いだ靴を揃える、靴箱にしまう習慣をつける。[随]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱いだ服をたたんだり、服が汚れたときに着替えたりすることが習慣化するよう、繰り返し指導する。</li> <li>・みんなと一緒に取り組むことで、安心できるようにする。</li> <li>★最初から決められた時間内に着替えを済ませることは難しいので、余裕をもった時間設定から始めていく。</li> </ul>

スタート期（1年生4月）の取組/配慮の欄 ・ 配慮事項 ★ 配慮事項に関連してのポイント



## 精神的な自立

- 自分のよさや可能性に気づき、意欲や自信をもつ。
- 現在及び将来における自分自身のあり方に夢や希望をもつ。
- 前向きに生活していく。

	アプローチ期（5歳児1～3月）の取組	幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿	スタート期（1年生4月）の取組	
			学習内容	配慮
情緒の安定・就学への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年長児としての自覚をもって行動する。[目]</li> <li>⇒一人一人の期待と不安の交錯する気持ちを丁寧に受け止め、その子らしさを再確認しながら、自信をもち気持ちを安定させて過ごせるようにする。</li> <li>• 小学校生活に期待を膨らませ、就学を楽しみにする。[目]</li> <li>⇒小学校生活が具体的にイメージできる環境や機会をつくる。（写真掲示、小学校の児童や先生との交流の機会、小学校ごっこなど）</li> <li>⇒期待感をもてる取組とともに、幼稚園、保育園等と小学校の生活や環境の違いを意識した関わりをする。（名前の呼び方、時間や活動の見直しなど）</li> </ul>	健康な心と体  自立心  協同性  道徳性・規範意識の芽生え	学習内容	配慮
自立心	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の力でできることに誇りをもつ。[目]</li> <li>⇒これまで大人に手伝ってもらっていたことも自分の力でできたことに手応えを感じられるように、子どもがやり遂げられるような場面をつくっていく。</li> <li>• 自分が役に立つ喜びを感じる。[目][協]</li> <li>⇒クラスの中で認められる経験や、当番活動を最後までやり遂げることなどから自信をもち、自己肯定感を高める。</li> <li>⇒年下の友達との関わりの中で、自分が大きくなったことを感じられるよう、交流の機会をもつ。</li> </ul>	社会生活との関わり  思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今までの経験を生かしながら、自覚をもって自分のことは自分です。[随]</li> <li>• 困ったときは先生や友達に助けを求め、自分の力でやり遂げようとする。[目]</li> <li>• 自分が役に立つ喜びを感じる。[協][社]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 入学当初は子どもが安心感をもてるよう、まず担任と子どもの関係づくりを心掛ける。</li> <li>• 席が近い身近な友達に親しみを感じられるよう、やり取りをする機会を意図的にもつ。</li> <li>• 学級や担任以外にも安心できる場所や人がいる（ある）ことで、個々の多様な気持ちに寄り添えるようにする。</li> <li>• 園や家庭での経験を生かせる工夫をし、学ぶ楽しさが感じられるようにする。</li> <li>• 「間違っても失敗しても大丈夫」「待っていてもらえる」という安心感もてるようなクラスの雰囲気をつくっていく。</li> <li>★ 家庭との連携を密にし、生活全体で児童の心身の状態を捉え、共に支えていくスタンスをとることが大切である。</li> </ul>
協同性 人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>• クラスみんなで共通の目的をもって話し合ったり、実現に向けて力を合わせたります。[協][目]</li> <li>⇒共通の課題を提案し、話し合いをする機会を積み重ねられるようにする。</li> <li>• 相手の話を聞いたり受け入れたりする中で、自分の気持ちをコントロールする姿を支える。[社][協]</li> <li>⇒話し合いを進める中で、クラスの目標を達成するためには、相手の思いを理解しつつ折り合いをつける経験をする。互いのよさを分かり合い、楽しみながら一緒に遊びを進める。</li> <li>⇒意見の食い違いも経験する中で、クラス全体で取り組んだことの手応えを感じられる取組を進める。</li> <li>• 小学校や地域の人など様々な人に親しむ。[社][随]</li> <li>⇒計画的に交流の経験を重ねる。</li> </ul>	自然との関わり・生命尊重  数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達と協力して、自分たちの力で学校生活を送ろうとする。[協][随]</li> <li>• 新しいクラスの先生や友達を自分のクラス、仲間と感じて親しみをもつ。[協][社]</li> <li>• 必要なことを言葉で伝える。[目]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループで取り組む活動を意図的に取り入れ、教え合ったり、助け合ったりできるようにする。（やり取りしやすい2人から始め、全体での共有につなぐ）</li> <li>★ 個々の思いが発信できる場をつくることで共通の話題が生まれ、みんなで考えていこうという雰囲気が出ていく。</li> <li>★ 分かりやすい課題を与えることや、活動の見直しをもたせることで、グループなどでの活動にも意欲的に取り組みやすい。</li> <li>★ 学校の先生、他の園から入学してきた友達、上級生など、小学校で出会う様々な人に親しみもてるよう、交流する機会をつくる。</li> <li>★ 集団ゲームやリズムなど、園で経験した遊びを取り入れるのも有効である。</li> </ul>
規範意識・道徳性の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「してよいこと」「してはいけないこと」を自分で判断できるようになる。[随]</li> <li>⇒善悪の判断を、子どもと話し合いながら考えていくが、してはいけないことについては、きちんと価値観を伝えていく。</li> <li>• 生活や遊びのルールを守ることの大切さが分かる。[協][随]</li> <li>⇒約束やルールを守ることが、楽しさや心地よさにつながっていくことが感じられるよう、具体的に伝える。</li> <li>• 挨拶をしたり、感謝の気持ちを言葉で伝えたりする。[社]</li> <li>⇒保育者から進んで挨拶や感謝の言葉を掛け、応答しながら身に付けられるようにする。</li> <li>• 友達のよさや自分のよさを感じる。[協][随]</li> <li>⇒友達のよさを伝え合うことが、個々の自信につながったり、相手のことをより知りとうとするきっかけになったりするようになる。</li> </ul>	豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校生活の基本的なきまりを知る。[随]</li> <li>• 生活や遊びのルールを守り、新しいクラスの友達との生活を楽しむ。[協][随]</li> <li>• 挨拶や返事を習慣として身に付ける。[随]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 元氣よく挨拶したり、名前を呼ばれたら「はい」と返事をしたりすることは、互いに気持ちが良いことを伝えていく。</li> <li>• みんなで気持ちよく生活していくためにどうすればよいか、集団生活のルールをクラスみんなで確かめたり、考えたりする。</li> <li>★ ルールを分かっているけどできないことがあるが、繰り返しの指導や、教師との信頼関係の構築の中で身に付いていくことを理解して関わる。</li> <li>★ 園生活との違いを具体的に知らせるためにも、幼稚園・保育園等での生活を実際知っておくと指導しやすい。</li> </ul>

スタート期（1年生4月）の取組/配慮の欄 ・ 配慮事項 ★ 配慮事項に関連してのポイント

